

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
定期安全レビュー分科会
第6回 P S R作業会 議事要旨

日時：2004年12月22日（水） 13:30～17:00

場所：原子力安全基盤機構 第14,15会議室

出席者：（敬称略）

委員 平野〈主査〉，三浦〈副主査〉，成宮〈幹事〉，池上，石崎，及川，小林，斉藤，素都，大山（高尾代），寺田，百々，竹下（光岡代），前田（森田代），吉田 15名
常時参加者 岡島，佐藤，須田，前田，村山 5名
傍聴希望者 今井，上野，中條，山口，路次 5名
事務局 太田

配付資料

- P6WG1-6-1 第5回 P S R作業会 議事要旨（案）
- P6WG1-6-2 第5回 P S R作業会 コメント対応状況
- P6WG1-6-3 P S R標準案（第4回定期安全レビュー分科会資料より、3.まで抜粋）
- P6WG1-6-4 I A E Aの安全要因にあるレビュー項目との比較
- P6WG1-6-5 P S R標準案「4.保安活動の実施の状況の評価」前回作業会案との比較
- P6WG1-6-6 P S R標準案「5.保安活動への最新の技術的知見の反映状況の評価」
本文-附属書-解説対比表
- P6WG1-6-7 P S R標準案「6.確率論的安全評価」本文-附属書-解説対比表

参考資料

- P6WG1-6-参考1 第4回 定期安全レビュー分科会（P6SC）議事録素案
- P6WG1-6-参考2 P S R標準に係る検討状況（第4回定期安全レビュー分科会資料）

議事要旨

議事に先立ち太田事務局より代理を含め委員14名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。（遅れて1名出席。また、平野主査が途中退席され、7）の途中以降は三浦副主査が代行）

1) 前回議事要旨確認等

- (1) 前回議事要旨確認
岡島常時参加者より前回議事録が提示され、コメントなく了承した。（P6WG1-6-1）
- (2) 人事について
事務局より、佐藤親宏氏（テブコシステムズ）から常時参加者登録の申し出がある旨の報告があり、挙手により全員一致で承認した。
- (3) 標準委員会活動状況について
事務局より、次回発電炉専門部会が1月19日の予定であるが、同日にPLM作業会も予定されているため、時間をずらすよう調整中との紹介があった。

3) 前回 P S R作業会コメント対応状況

岡島常時参加者より、前回 P S R作業会でのコメントのうち、既に修正して第4回分科会へ提示したものについて説明があった。（P6WG1-6-2, P6WG1-6-3）
「まえがき」冒頭における、作業会名の記載方法については、他の標準との調整が必要であり、事務局にて検討することとなった。

4) 第4回定期安全レビュー分科会の結果

岡島常時参加者より、第4回定期安全レビュー分科会の結果について、議事録素案により紹介があった。（P6WG1-6-参考1, P6WG1-6-参考2）
PSR作業会としては第三者評価までは要求しないとの結論であることが確認された。
P6WG1参考-1 P3上から17行目の「第三者の確認」とあるのは、正しくは「評価者以外の者による確認」であるので、事務局を通じて修正を依頼することとした。

5) I A E Aの安全要因にあるレビュー項目との比較

三浦副主査より、I A E Aの安全要因にあるレビュー項目と我が国のレビューシステムで実施している項目と比較・分析結果について紹介があった。（P6WG1-6-4）

以下の議論があった。

- ・PLMと10年目、20年目のPSRにおける高経年化の評価の関係を明確にしていきたい。
- 整理表では、経年化について、高経年化のみを対象として、PLMのみが該当するとしているが、30年以前でも、安管審・保安検査で保守管理の状況として経年化を見ている。30年以降は、PLMの観点からも見るということと

なる。IAEAではPSRとPLMを分けていないので、我が国の形式と異なることに注意が必要である。

→本作業会では、今のPSRのプラクティスで経年化をどう扱っているのかについて、明確に整理しておきたい。

- ・我が国のPSRでカバーしていないものは、決定論的安全解析、ハザード解析。決定論的安全解析については、IAEAガイドには、best estimate評価など我が国では現実的ではないものがあり、対象外としたい。ハザード解析については、我が国でも地震PSAなどが検討中であり、PSAで扱えると言えないか。

→DBE以上についてはPSAも有効。

- ・我が国のPSRでカバーしていないものについて、ポジションをまとめておく必要がある。
- ・IAEAガイドにある、改善項目間の相互作用という見方も入れる必要がある。個々には都度やられるだろうが、10年間の改善全体としてどうかということ。
- ・IAEAには他にも論点があるので、次回以降引き続き検討したい。

6) P S R 標準案

(1) 保安活動の実施の状況の評価

小林委員より、保安活動の実施状況の評価の標準案について説明があった。(P6WG1-6-5)

以下の議論があった。

- ・マネジメントレビュー、内部監査等、調査項目を明確に限定しているが問題ないか。
→JEAC4111-2003に基づき調査項目を決めた。品質目標などの活動もマネジメントレビューに含まれる。
- 10年を見渡して、同様のトラブルが起こっていないか、トラブルが組織のうち特定の箇所に集中していないかを見て、問題点摘出能力を高めたい。パフォーマンスインデックスやROP(Reactor Oversight Program)と似ているのではないか。
- ・設備利用率、計画外停止といった基本的項目が入っていない。
→保安活動のレベルとは必ずしも一致しない指標なので評価の対象とはしていない
→文書化にあたりとりまとめる事項を明確化したい。
→IAEAのPI(Performance Indicator)に関する文書を確認する。

(2) 保安活動への最新の技術的知見の反映状況の評価

岡島常時参加者より、保安活動への最新の技術的知見の反映状況の評価の標準案について説明があった。(P6WG1-6-6)

以下の議論があった。

- ・解説5.1の前段がDBEだけに読める。SAも重要なので表現を見直すこと。
- ・エンドースされた民間規格までを対象にするのが現実的と考える。明確に記載してはどうか。
→「安全規制に採り入れられた」の解説が必要。GL(Generic Letter)やIN(Information Notice)は参考になるというのならわかるが、「GLのうち対応を指示したもの」とは限定しすぎのような気がするし、「参考になる」というのはよくわからない。
→保安活動の実施の状況の評価の中では、GL、INの他メーカー情報も含めて広く扱っている。
→全体として扱っている範囲を述べた上で、ここではこれをミニマムリクワイアメントとするという書きぶりにすべき。

(3) 確率論的安全評価

岡島常時参加者より、確率論的安全評価の標準案について説明があった。(P6WG1-6-7)

以下の議論があった。

- ・記載内容を全否定するものではないが、記載ぶりが後ろ向きすぎる。
→PSAの対象範囲の拡充が進められているのはよいが、標準化即個別プラントで実施するというものではない。重要度評価の解説が漏れているので追記したい。
→PSAの使われ方と並行して検討を進めていく必要がある。暦年、AMのくだけは削除する。

(4) その他

以下の議論があった。

- ・報告書とりまとめ、公開について、あちこちに関連する表現が散在している。別に章を起こして記載したほうがいいのか、各章に記載するか、整理を検討したい。

7) 次回予定等

次回作業会は発電炉専門部会後の1/下旬~2/月上旬で別途アンケートを実施することとした。

発電炉専門部会は1月19日に開催されるが、付議する標準案について、12/13分科会版、本日の作業会版、本日の作業会コメントを反映した版のどのバージョンを報告するか、三役預かりとなった。

以上